

令和 7 年 5 月 20 日

豊丘村議会議長 平澤恒雄 様



豊丘村議会議員

壬生 真由美

一 般 質 問 通 告 書

次の通り通告します。

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. 豊丘村の水を考 えることについて	JR 東海によるヒ素を含む要対策土 3000 m³を本山発生土置き場に活用する説明会が実施されます。 本山発生土置き場は水源涵養保安林を解除したとはいえ、水源地に位置することには変わりはありません。山間地の湧水や、地下水を引き込む水道水や簡易水道水への影響が心配されます。 水道事業者としての村の見解をお聞きします。 (1) 村内には 9 カ所の水源があるとお聞きしています。当たり前を使う水道水は村のどこから取水、集水し、各家庭に配水されているか。各系統の集水域(標高と面積)と配水方法の概略を伺います。 (2) 水道水を安全に供給するために 51 項目の水質基準が水道法で定められています。今回注目されているヒ素について、水質基準の考え方と村内の水源地での測定方法、頻度、測定値の変化を伺います。 (3) 地下水の成分の変動を追跡することは困難ですが、地震や土砂災害など天災による地形の急激な変化による水脈の変動がない限りは地下水の汚染は人間活動に起因するものです。昨年 9 月岡山県吉備中央町の浄水場で PFAS が検出された事件は、事業所からの排出ではなく、公共水道の取水源であるダム近くにある資材置き場の使用済み活性炭が汚染源でした。 要対策土を水源地となる山間地におくことは、避けるべきと考えますが、水道事業者として、村長はどう判断されますか。	建設環境課長 建設環境課長 村長

質問事項	質問の要旨	質問相手
	先立ち枝先に咲く赤い花、夏に緑陰を私たちは享受させていただいてきました。「緑はあるといいけれど、自分の家の前はやめてほしい。」役所の公園緑地課への苦情のほとんどがこの類であり、昔も今も変わりはありません。行政はどのように対応すればよいでしょうか。役場庁舎の樹木管理について、今までの経緯と基本的な考え方を伺います。 (3)街路樹の役割について考えたいと思います。 街路樹や公園花木には景観としての価値の他に木陰による暑さ対策の効果もあります。千葉大学名誉教授の藤井英二郎 先生によると、樹冠被覆率を 30 %まで増やせば暑さに起因する死者数を 40 %減らせるということです。樹冠被覆率とは「一定の土地面積に占める樹冠で覆われた面積率」です。 飯田市の街路樹「熊野殿岡線のカツラ」で 2021 年の 8 月 7 日午後 2 時半に計測した温度では、カツラの木陰にあるアスファルトは 37.6～38℃、直射日光のあたるアスファルトは 54.8～59.5℃という樹木医の報告があります。 また、樹木の存在価値を生態系サービスとして評価し定量化することで貨幣価値として認識する動きがアメリカを始め諸外国の都市部で進められています。 豊丘村では公共施設等総合管理計画が策定されていますが、街路樹や敷地内緑地の管理については触れられていません。環境基本計画では、里山風景の保全についてふれられていますが、村の施設や店舗、事業所、住宅が集中する地区の景観や環境に関しては言及していません。 落葉の問題をはじめ、公共の緑、グリーンインフラの創出は地域社会と街路樹管理者の連携が重要です。公共施設整備基金、ふるさと納税寄付金基金などを活用し、村のグリーンインフラを整備、守るための住民会議や仕組み、条例制定を目標に、『緑と清流を、こよなく愛する村に』豊丘村民憲章の第 1 の実現に施策を磨いてほしいと考えます。村長のご意見を伺います。	村長